

もみじ谷だより 11月号

みずきの里づくり推進委員会

平成22年11月15日(月)

◇ 第5回・6回もみじ谷整備作業を10月20日(水)・21日(火)終日実施

・ わくわく事業で当初から計画をしていました難所の間伐と高所作業車を使っての枝打ち作業を森林組合に委託して行いました。間伐、枝打ちともにそれぞれ二人コンビで行ってくれましたが、プロの腕はすばらしく二日で大きな仕事ことができました。計画通り御内の日までに予定した道庵坊主の滝上下流の整備が一応できました。間伐をした枝の整理が十分ではありませんが、川への見通しはよくなったと思います。また、「心岩」に巻いていました藤の蔓をメンバーがきれいに取り払ってくれましたので、渓谷の中心にどかっとV字形に鎮座する大岩が姿を現し、神越溪谷の新しい見どころができたと思います。

・ 来年度以降、ボランティアで行う作業とプロに委託して行う作業と分けて取り組んでいく必要があると考えます。来年度以降やれそうな箇所も少し手を付けましたので、引き続き範囲を広げて間伐と枝打ちを進めていくことがいいのではないかと考えています。

・ 20日、21日に作業に参加していただいた方は、矢澤区長、角藤、堀込、矢澤紹、水野一、藤澤の皆さんです。ご協力に感謝します。

◇ 神越溪谷の石 — 領家変成岩(上流)～花崗岩(下流) —

・ 中立裏は、道路際に大きな一枚岩が所々に顔を出しています。道路ができるまではこれが川まで降りていたと考えられます。そのため、荷駄を運ぶ馬が通れなかったため、片棧橋を張り出して通行していたそうです。事故もあったと伝えられており、村人は足助へ出るのに苦労していたことが伺えます。また、この岩盤を削り今の道路を作ってきた先人の苦労は想像を絶するものであったと大岩を見上げて改めて思いました。こうした道路の由来も今後紹介していくことも考えています。

・ 神越溪谷の守り神ともいえる心岩の右隅に、ポットホールが見られます。案内看板もありますが、今の立った状態でポットホールはできませんので、大昔、心岩はおそらく川に平らな状態で横たわっており、その時期に水流で穴ができたと考えられます。今から何百年、いや何千、何万年前なのかもしれません。その後、心岩は洪水によって少しずつ起きてきて、これまた気の遠くなるような時間をかけて今の状態になったと考えられます。かつて大水が出たとき、心岩の真ん中を滝のように水が落ちていたのを見たことがあります。そんな写真が撮れたときは是非ホームページに載せたいものです。

・ 心岩は「花崗岩」という種類の石です。6,000～7000万年程前、マグマが地下深くで固まってできたもので硬くて緻密な石です。この中立裏の辺りの渓谷の基盤となっている石です。あの形(V字形)で残っているので、高いところから落ちてきた転石ではなく、岩盤からはがれたものなのかもしれません。

・ 神越川は源流の寧比曾岳、出来山を結ぶ段戸山嶺から発していますから、その全体を神越溪谷と呼べるのですが、上流は海の地層（何千メートルの深い海につもった泥や粘土の層）が隆起してできています。奥山の市有林（郡雄林）の山石はこの海の地層が大きな圧力で変成した領家変成岩といわれる石です。石が縞になっていたり、薄くはがれることからそれがわかります。下流に下るにつれこの変成岩は水で流されてしまい、基盤となる花崗岩 が出てきているのです。上流ほど変わった石が見られるのはそのためです。

◇ 神越溪谷の森

本年度の作業は一応終わりました。今年は道庵坊主の滝周辺が整備の中心でしたが、やりたいところは無限にあります。クズなどが覆っているところは刈り払うしかありませんが、刈り払ったところは、また、しばらくするとクズが覆い尽くします。この間あるテレビ番組で、アメリカに渡ったクズが広がり、「悪魔の草」といわれてその処理に困っている様子が放映されていました。溪谷の道下は、見通しがよくなるようある程度は下刈りも必要ですが、雑木は残し、日陰を作っておかないと、毎年香嵐溪のように下刈りをやらなくてはなりません。自然度を保つ意味からも、杉・桧の間伐、枝打ちをした後は、クズやフジをはじめとした蔓（つる）性の植物を切る程度で管理がしていけるようにしていった方がよいと思います。

COP10の名古屋での開催により、本年、生物多様性の話題がよく聞かれましたが、溪谷について当てはめるなら、いろいろな樹種の樹や草が生えていることによって、それを食べる多様な種類の昆虫が集まります。そして、その昆虫をねらって野鳥が集まるといった食物連鎖が保たれます。香嵐溪は最近、もみじの下草をきれいに刈り取っています。カタクリが注目されて以来だと思いますが、中にはもみじのために大きな檜の木などの雑木が伐採されました。このようにモミジ類の単一樹種ばかりになりますと多様性がなくなり森のバランスが崩れます。作った公園などがそのよい例ですが、東京の明治神宮の森は戦後復興のために、武蔵野に生えていた木を移植し、そのままの森を再現したそうです。また、万博の関連で切り取った八草駅周辺の山は道路整備後、森の再生のため、周辺の森の植物の種をまき苗にして植林したものです。ですから、もともとあった山の植生とほぼ似た山に再生してきました。

神越溪谷について言えば、大昔は上流はブナ、ケヤキ、トチノキ、ミズナラなどの広葉樹の中に、モミ、ツガと言った針葉樹の混じった森でありました。今では裏谷や面ノ木峠にしか残っていません。また、下流はカシの森でした。百年単位で人の手が入らなければ、雑木林はこのような森に変わっていくのです。しかし、人間が杉や桧を植えたために、このままではそうはなりません。せめて、河畔や道路際はいろいろな樹種の雑木を積極的に残すべきであります。それは、人を引きつけつける資源となりますし、ここに住む人の楽しみにもなっていくと思います。植林の進んだ神越溪谷の森全体から見ますと、道沿い、河川沿いの雑木はきわめて貴重なものなのです。今後の整備のテーマでもあります。

◇ 第4回御内の日開催

10月31日（日）、2年ぶりに御内の日を開催しました。参加者は総数80名（区民34名、区外46名）でした。やや少なく感じましたが、年々高齢者が増えるわけですから仕方がないと思います。今後は趣向を変えながら、まず、区民のにとって楽しめる会にしていくことが必要かなと思います。今回は、市の援助をいただいている関係もあり、今までのメンバーに加え、多くの関係者も参加していただきました。次回のついては広く市民に呼びかけることも必要かなと思っておりますが、その是非についても皆さんにお図りしたいと思っております。

区民の皆様には、お手伝いを下さり誠にありがとうございました。推進委員会のメンバーだけでは人手が少なく大変助かりました。推進委員会としては反省会も持ちましたが、今後に向けいろいろなご意見をお寄せいただきたいと思います。

◇ 神越溪谷をおもしろくする会の研修会を行います。区民のご参加を募ります。

目的	観光地としての神越溪谷、みずきの里の将来を考える
期日	12月12日（日） 8：00～17：30
行き先	醒井（さめがい）養鱒場 滋賀県米原市上旦生
日程	鼎館集合(8:00)－松平IC－名神－米原IC －醒井（研修・昼食）－多賀神社参拝・・・鼎館着
費用	バス代以外は実費個人負担（食事等） マイクロバス（29人乗り）
申し込み	11月30日（火） 各組長さんまで（組長さんは神越社長へ）